

地球規模保健課題解決推進のための研究事業（日米医学協力計画）
「日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募」
事後評価 課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	HIV 感染者における A 型急性肝炎病態制御に係る免疫因子の解明 / Comprehensive analysis of immune pathogenesis of acute hepatitis A with or without HIV co-infection
研究開発機関	国立国際医療研究センター 肝炎・免疫研究センター 肝疾患研究部
研究開発代表者	由雄 祥代
研究期間	令和 1 年 9 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日

○評価委員会コメント

強み：

- COVID-19 の影響で困難な状況下にあっても、研究期間延長の末 APac チームの韓国側と共に免疫細胞解析を行い、解析した結果を投稿中までこぎつけ、着実な研究成果を得たことは高く評価出来る。

弱み：

- COVID-19 の影響もあり日本側の研究が計画通りに進めなかった点は残念である。米国サブチームの HAV エピトープに供する日本側への材料提供も実行されなかった点も併せて残念である。米国パートナーの必要性は不明であり、本事業の日米医学協力計画の観点では評価し難く、今後の発展についても疑問が残る。
- 肝炎の病態をより正確に評価する点でも肝生検は欠かせないと思われる。血中因子と免疫細胞のみの解析では、直接的な肝障害を評価する上で不十分なのではないだろうか？この点をクリアして更なる研究発展を望みたい。